

エコツーリズムのまち・飯能 ～地元ガイドが地元の言葉でご案内～



飯能市産業環境部観光・エコツーリズム推進課 かたの 片野 ようすけ 陽介

1 始めに

当市は、東京都心から約1時間、埼玉県の南西部にある人口約8万人のまちです。市の面積の76%を森林が占め、また、一級河川である入間川や高麗川が流れているなど、緑と清流のまちです。

これらの身近な自然や自然に根付いた地域の生活文化を活かしながら次の世代に残していくために、当市では平成16年の環境省エコツーリズム推進モデル事業に応募しました。

なお、エコツーリズムとは、「自然や歴史、文化を体験しながら楽しく学び、それらの保全にも責任を持つ観光のあり方」です。エコツアーとは、エコツーリズムの考え方を実践する手法で、飯能では「人のふれあい」と「体験」を重視し、「地域の方が地域の言葉で、地域を案内する」エコツアーが行われています。

2 取組みのきっかけ

当市は自然環境に恵まれていたことから、昔から多くの方がハイキングなどで訪れていましたが、それらの大半は地域と関わりを持たずに帰っていく状況でした。また、山間地域では高齢化や過疎化、かつて賑わいを見せていた中心市街地も商店街の空洞化などの課題がありました。

このような課題がある中で、将来に向け、自然・生活環境を守りながら、活力あるまちをつくりあげていくために、様々な検討をしました。

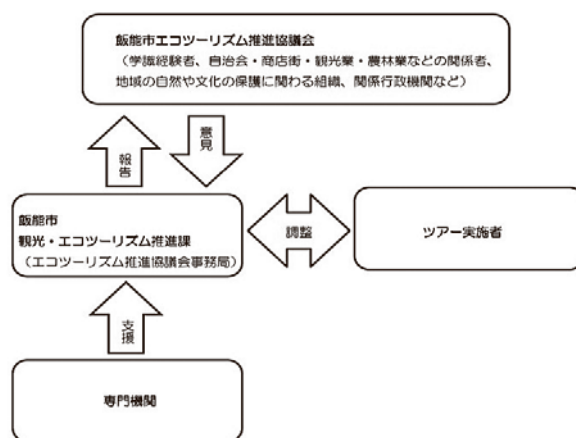
その結果、当市が持っている「身近で豊かな自然資源や歴史・文化資源、地域の方が培ってきた生活・習慣、食文化など」を宝物としてとらえ、それらを

活かしながら、地域の活力や経済の振興につなげていくための手段の一つとして、エコツーリズムの導入が有効と考えました。

環境省の施策展開のタイミングも一致し、平成16年に環境省のエコツーリズム推進モデル事業「里地里山の身近な自然、地場の産業や生活文化を活用した取組み」への応募・指定を受け、取組みを開始しました。

開始後は、エコツーリズムを推進する部署（現：観光・エコツーリズム推進課）を設け、エコツーリズムの普及・定着、エコツアーの支援・PR、エコツアー実施団体への補助金などの財政支援を始めました。

また、エコツーリズムに関する取組方針などを話し合う「エコツーリズム推進協議会」を設置し、市と協議会が両輪となって、飯能エコツーリズムの基本方針などを定めたほか、その方針を実現するため、エコツアーの質を担保するための仕組みなどを構築しました。



○エコツーリズム推進のフロー図

協議会は、地域ぐるみでエコツーリズムを推進したことを評価され、平成20年度に環境省と日本エコツーリズム協会主催による「エコツーリズム大賞」の「大賞」を受賞しました。

また、平成21年度にエコツーリズム推進法に則って、今後飯能が進むべきエコツーリズムの方向性をまとめた「飯能市エコツーリズム推進全体構想」を策定し、全国で第1号のエコツーリズム推進全体構想地域の認定を受けました（平成26年度に再認定）。

さらに、推進全体構想の再認定に合わせ、推進全体構想の効果的な実現に向け、「飯能市エコツーリズム推進計画」を策定し、「飯能ファンの増加」「市民による地域の魅力の再発見」「新たな里山保全」「地域経済への貢献」などに重点を置いた取組みを進めています。

また、市の総合振興計画の中では、エコツーリズムを推進基本施策の一つとして位置づけております。

3 取組み内容について

当市では、現在年間約130のエコツアーが行われ、4,000人以上の方にご参加をいただいております。

エコツアーのテーマは、生き物観察・水辺の保全など自然を中心としたものや、里山・集落散策、郷土料理づくりのツアーといった文化的なテーマなど様々です。エコツアーのプログラム数や参加者数は年々増加し、幅が広がってきました。

年々増加しているエコツアーの質を高め、維持していくために、事務局である市と協議会で事前に企画を確認し、実施者にフィードバックする事前協議制度があります。事前協議が終了したエコツアーは、飯能のエコツアーとして認められ、開催できます。

ツアーの実施にあたっては、参加者を対象にしたアンケートやふりかえりを行い、また、必要に応じて事務局が同行してモニタリングを行い、今後のエコツアーの改善につなげています。



○エコツアーの前には下見を行い、ガイド内容を確認

当市のエコツーリズムは、「すべての地域と人の参加」ということで、プロのガイドではなく、地域の住民の方が中心となってエコツアーのガイドをしています。また、地域の方が持っている知恵や技術を宝物としております。

例えば、地元のお母さんと一緒におまんじゅうづくりを楽しんだり、小さいころから飯能の山に親しんできた父さんと一緒に、キノコ観察しながらハイキングするエコツアーがあります。このように、ガイド自身が培ってきた経験がエコツアーに生きています。



○地元のお母さんとおまんじゅうづくり

ガイドを育成するための事務局の取組みとしては、年1回ガイドを養成する講座「エコツーリズムオープンカレッジ」があります。講座の修了者が、活動

のきっかけを作るために、市が事務局となっている組織「活動市民の会」があります。この会では、エコツアーの実施や勉強会を開催するなど、活動内容が幅広いです。

また、すでにガイドとして活動している方については、スキルアップを図るための「ステップアップ講習」などを開催しています。

4 効果

当市はエコツーリズムの取組みを始めて10年以上が経ちましたが、まちにも以下の5点の効果が生まれています。

① 飯能ファンの増加

エコツアーをきっかけに、飯能が好きになった、ファンになったという方がいらっしゃいます。1年に何度も訪れてくださる方もいらっしゃいます。このようにエコツーリズムは飯能の観光事業の中で大きな柱に育っています。

② 地域の魅力の再発見

エコツアーの企画のために地域の人材や資源の発掘が行われ、住民が地域の良さを再発見することにつながっています。その結果、地域への誇りや愛着が生まれ、地域が元気になっています。

③ 里山の保全、環境教育の推進

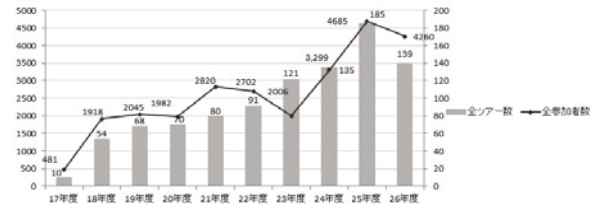
ボランティア活動ではなくエコツアーに参加していただく中で、ブラックバスの駆除やピオトープづくり、竹の伐採などの里山の保全活動を楽しみ、環境保全意識の向上にも結びついています。遠足で訪れる小学生をエコツアーガイドが案内するなど、環境教育にも力を入れています。

④ 地域経済への貢献

エコツアーの中で地元の食材を活用したり、市内のお店を利用したりして、地域経済へ貢献できるよう工夫しています。また、エコツアーの参加者の皆様には公共交通機関を利用していただくようお願いをしており、公共交通機関の利用機会の増加につながっています。

⑤ まちのPR

「エコツーリズムのまち・飯能」として、市外・海外から大勢の方がエコツアーに参加したり、視察に来ていただけるようになってきました。自治体や大学の研究者などによる視察は年に20回以上あり、イベントでの出展や講演、新聞やラジオなどのメディア掲載を通じて、まちのPRに役立っています。



○エコツアー参加者の推移

5 課題

当市では、今後もエコツーリズムの取組みを継続していくことが必要で、そのための課題は以下の3つであると考えます。

- ① 参加者やツアー実施者の環境への意識を高めるとともに、自然の保全と文化の継承に役立つエコツアーを実施するために、自然観光資源のモニタリング方法の改善を行うことです。
- ② 多様な興味や関心を持った参加者のニーズを満たせるツアーの企画をすることです。
- ③ ガイド養成講座の充実、広く地域住民が協力できるツアーの拡充、ツアー実施者間の連携・相互協力体制づくり、ツアーに絡めた地域振興策の拡充等を通じて、より多くの住民が関わりながら、エコツーリズムを継続的に発展させることです。

これらの課題を解決し、当市のエコツーリズムが継続的な取り組みとなるように、市の推進計画を始め、協議会で今後のエコツーリズムの方向性を話し合い、行政と市民が両輪となって取り組んでいきます。